

# Kameda

2023.3 No.272



亀田の今を知る

## 亀田メディカルセンターの理念

私たちは、全ての人々の幸福に貢献するために  
愛の心を持って常に最高水準の医療を提供し続けます

- 最も尊ぶこと：患者さまのためにすべてを優先して貢献すること
- 最も尊ぶ財産：職員全員との間をつなぐ信頼と尊敬
- 最も尊ぶ精神：固定観念にとらわれないチャレンジ精神

## CONTENTS

亀田総合病院報  
No.272  
2023年3月号

- 3 巻頭言
- 4 数字で見る鉄蕉会
- 6 数字で見る亀田とコロナの3年間
- 10 看護の目
- 12 Close Up News
- 14 2022年度 患者さま満足度調査結果
- 18 病院は誰かの仕事でできている

## 情報の倫理

情報管理本部 本部長 小川 理

「私は〇×病院の新入職員。初めて担当した△〇さんが今日退院。記念の写真を一緒に撮った。写りがよいのでSNSにあげておこう。#〇×病院#初担当#△〇さん#□□病#手術#リハビリ#退院おめでとう#〇月〇日。フォロワーなんて知り合いが少しだけだし誰も見ないでしょ。それにしても上司の□〇ムカつく」(このエピソードはフィクションです)

皆さん、このエピソードは何が問題か考えてみてください。

診療に関する情報の大半は要配慮個人情報<sup>(※1)</sup>に該当します。医療機関は個人情報保護法のもと、それらを適切に取得・保管、利用することが求められており、医師をはじめとする医療関係資格者は法令により業務上知りえた情報について厳格な守秘義務が課されています。要配慮情報のみならず情報を取り扱う際には、倫理的な行動も求められます。ここでは倫理とは集団におけるルール、決まり事という意味で使います。情報倫理について考えてみたいと思います。

情報倫理はプライバシー、セキュリティ、知的財産権の側面から考えることができます。まず、他者の人格とプライバシーは、尊重されなければなりません。これには守秘義務だけでなく、誤った情報を流さないことなども含まれます。

SNSの普及により、従来の一対一のコミュニケーションと比べ、多数対多数となり、さらに情報拡散のスピードが上がっています。また、一度拡散した情報(言葉、写真)は完全に消すことはできません。SNSで情報を発信する場合には、プライバシーを含めて問題がないか一度考えてから投稿するようにしましょう。

情報セキュリティとは、認められたものだけがアクセスできる機密性、その情報が正確である完全性、許可されたものが必要な時にアクセスできる可用性などを保証することです。セキュリティの確保にはウイルス対策、不正アクセス対策などが必要です。最近では医療機関のシステムがランサムウェア<sup>(※2)</sup>を用いた攻撃により機能停止に陥り、診療に影響が出たというニュースを目にすることが多くなりました。この点において、ログインID・パスワードの適正管理、なりすましメールなどに注意が必要です。

また、他者の著作権、知的財産権を尊重することも大事です。デジタル情報はコピーが容易となっています。SNSにアップする際、気が付かないうちに他者の権利を侵害していることがあるので注意が必要です。

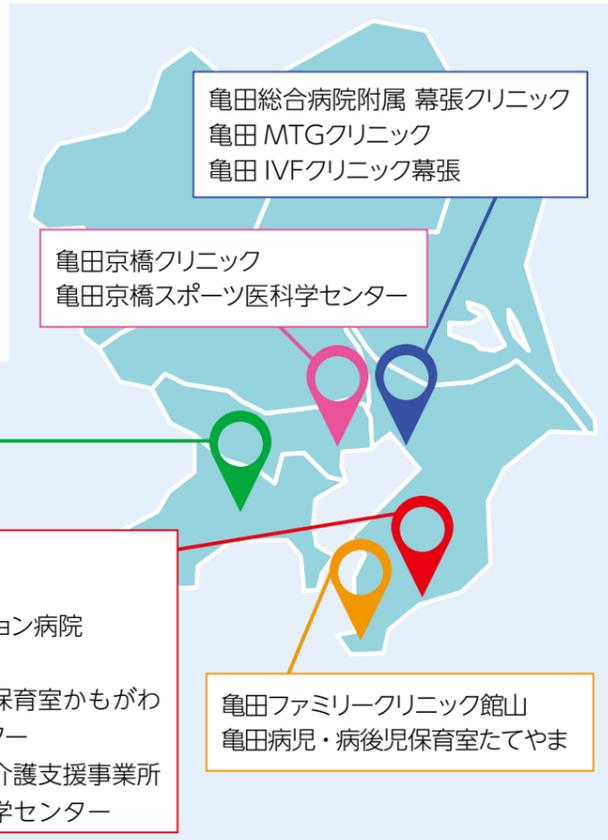
ITにより情報の取得や発信が便利になる反面、様々なリスクがあることも認識して利用することが求められます。

※1 要配慮個人情報とは、本人の人種、信条、社会的身分、病歴(身体・知的・精神障害、健康診断/遺伝子検査結果、保健指導、診療・調剤情報など)、犯罪の経歴、犯罪により害を被った事実その他本人に対する不当な差別、偏見その他の不利益が生じないようにその取扱いに特に配慮を要するもの。

※2 ランサムウェアとは、暗号化することでファイルを利用不可能な状態にした上で、そのファイルを元に戻すことと引き換えに金銭(身代金)を要求するコンピュータウイルスのこと。

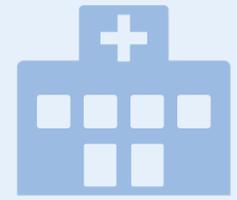
# 数字で見る 2022 鉄蕉会

毎年3月号はデータで亀田の1年間をご紹介します

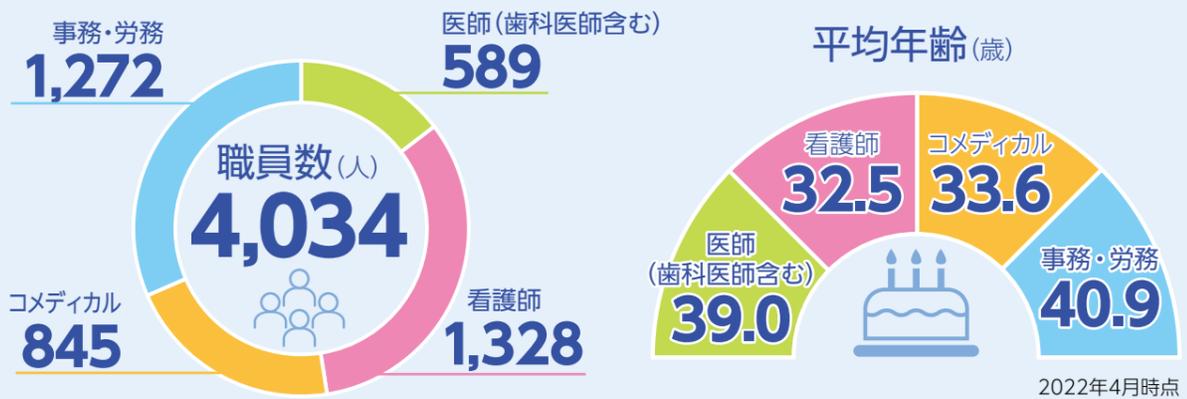


亀田森の里病院  
亀田訪問看護ステーション 森の里  
亀田居宅介護支援事業所 森の里

## 事業所一覧



亀田総合病院  
亀田クリニック  
亀田リハビリテーション病院  
亀田浜荻クリニック  
亀田病児・病後児保育室 かもがわ  
亀田訪問看護センター  
亀田総合病院居宅介護支援事業所  
亀田スポーツ医科学センター



## 2022年亀田総合病院主な出来事

**G棟※**  
グランドオープン

※基幹災害拠点病院として有事の際の機能強化を目的として建設。  
GはGUARDの略

**B棟2階手術室**  
5室増設  
(感染症対応オペ室含む)

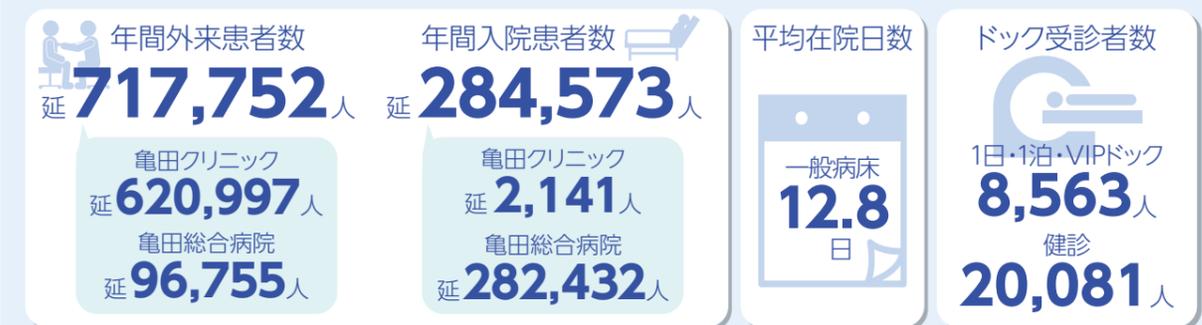
オープンからの手術件数 **235** 件

うち COVID対応 **14** 件

**手術支援**  
ロボット  
DaVinci 導入

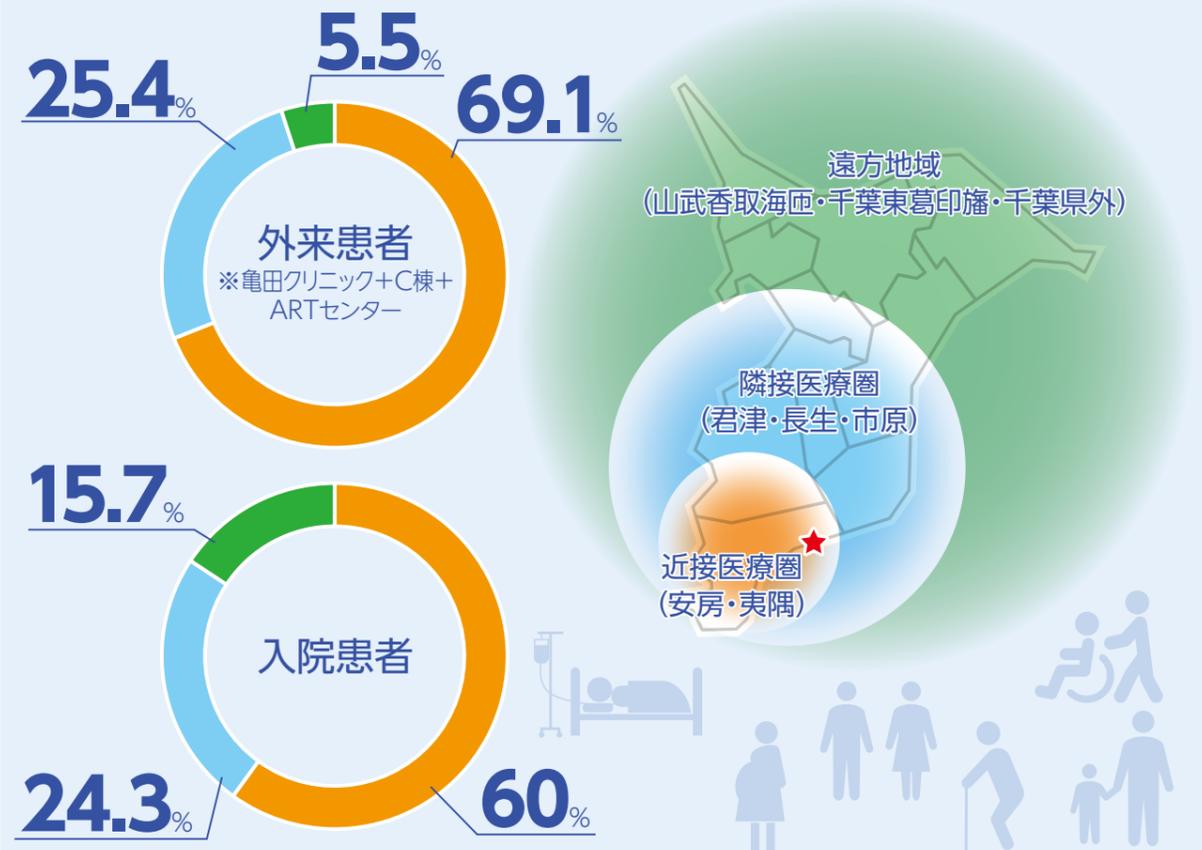
※データはすべて2022年1月1日～2022年12月31日まで

## 亀田クリニック+亀田総合病院



## 地域別患者数

近接医療圏 隣接医療圏 遠方地域



## 救命救急センター(件)



## 手術件数



# 数字で見る 亀田とコロナの3年間

2020年1月に日本ではじめて新型コロナウイルス感染症が報告されてから3年が経過しました。亀田グループが新型コロナウイルス感染症とともに歩んだ3年間の、データをご紹介します。

2020

- 1月29日 武漢市からの帰国者191名が勝浦ホテル三日月(現三日月シーパークホテル勝浦)に収容・隔離されたことをうけ、当院医師と看護師らが24時間体制で帰国者の健康管理を行った
- 1月31日 細川直登感染症科部長(以下細川医師)、鴨川市役所にて安房地域の行政・保健所・消防・教育関係者ら100名を対象に講演
- 2月3日 細川医師、勝浦市にて市民400名を対象に新型コロナウイルスの現状と対策をテーマに講演
- 2月25日 院内に「新型コロナウイルス感染対策本部」設置
- 3月16日 亀田クリニック 電話による診察・定期処方せん発行運用開始
- 3月18日 マスクの安定受給が見込めず、他施設からの結核疑い・結核患者の受け入れを一時制限(のちに解除)
- 3月19日 院内にアクリル板を設置
- 3月31日 安房地域の主な医療機関・医師会・行政関係者・保健所などが集まり、役割の明確化(図参照)
- 4月1日 亀田クリニックのすべての来院者に対して検温のほか、手指消毒協力をお願いを開始
- 4月7日 南房総市立富山国保病院へ感染対策支援のため訪問
- 4月9日 人工呼吸器を必要とする重症患者の受け入れに対応する「COVID-19対策 TEAM」発足
- 4月15日 面会禁止へ
- 4月17日 発熱外来運用開始
- 4月21日 いすみ医療センターへ感染対策支援のため訪問
- 4月24日 職員の心理的サポートを行う「COMST」発足
- 4月28日 予定入院患者への健康状態確認開始
- 4月29日 千葉県バーディーホテル千葉にて医療監修
- 5月11日 電話による再診・おくり宅配 運用開始
- 6月 帰国者受け入れを担当した大澤良介部長が監修・指導をしたホテル三日月グループが、防疫体制「三日月STANDARD」を発表
- 9月 亀田京橋クリニック・亀田クリニック 海外渡航者向けPCR陰性証明書発行開始



2021

- 2月 亀田総合病院に入院するすべての患者を対象に抗原定量検査を開始
- 3月 医療従事者向け新型コロナワクチン先行接種開始
- 6月 亀田クリニックにて住民に対する新型コロナワクチン初回接種開始
- 同月 肉腫科を中心としたオンライン診療拡大運用開始
- 8月 キャッシュレス決済などができる医療情報アプリNOBORI 本格運用へ

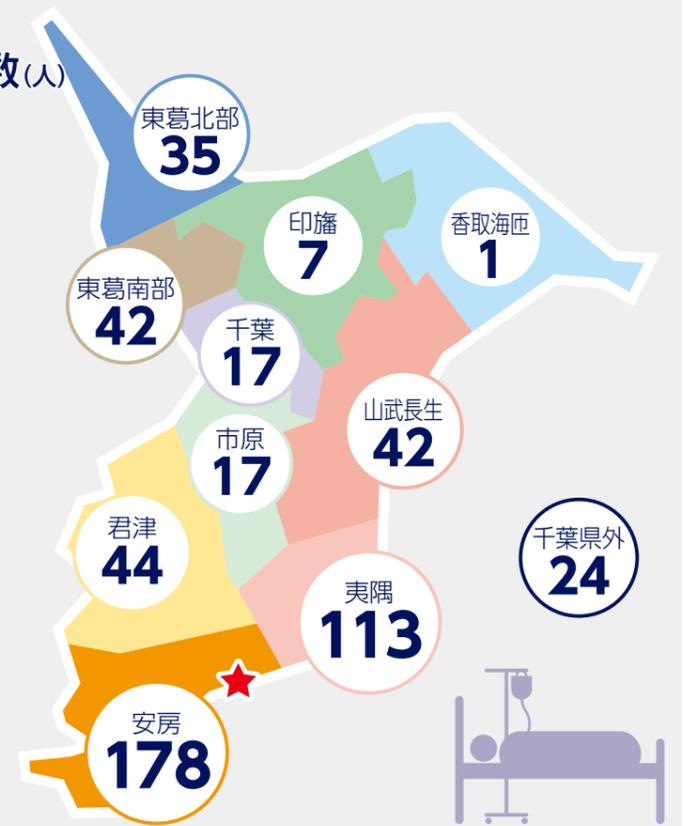
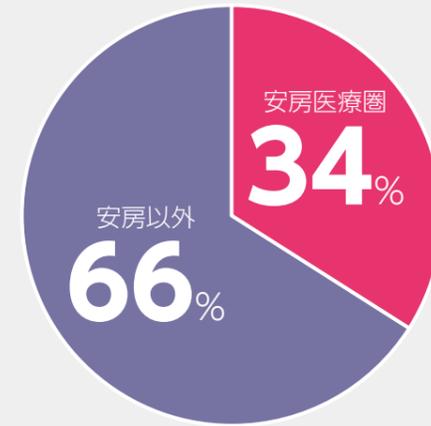
2022

- 4月18日 熊谷俊人千葉県知事視察のため来院
- 5月 G棟完成、感染症疑いの透析患者も安心して受け入れ可能に
- 同月 感染症に対応可能な手術室の増設
- 12月 小児の発熱外来移転

2023

- 3月 発熱外来を救命救急センター駐車場に新設

## 亀田総合病院における コロナ重症入院患者受け入れ数(人) (地域別) 期間：2020年1月～2022年12月 (全520人)



## 亀田総合病院新型コロナ 確保病床数



最大 **37** 床

千葉県の病床確保のフェーズにあわせて調整しています

## 発熱外来受診者数

2020年4月17日～  
2022年12月31日

**14,360** 名

うち陽性者 **3,142** 名 (みなし陽性を含む)



## 入院前抗原検査件数



2021年

**17,256** 件  
陽性者 **23** 名

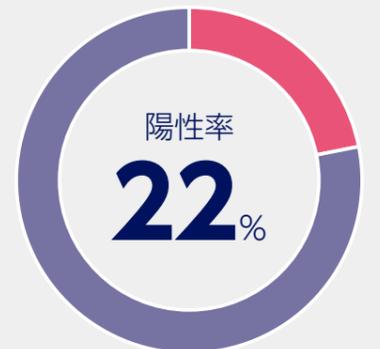


2022年

**20,187** 件  
陽性者 **294** 名



## 発熱外来

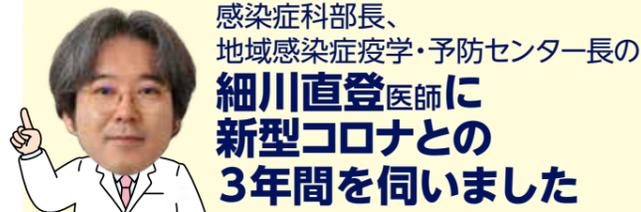
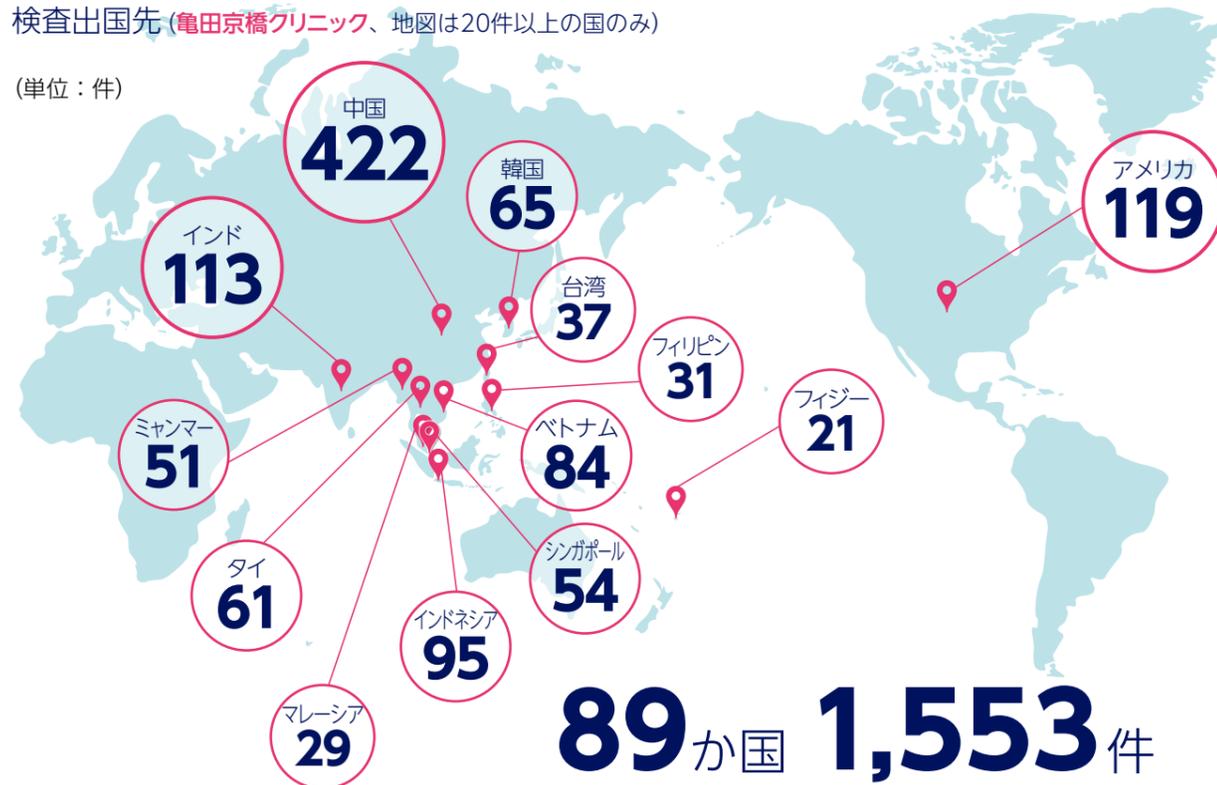




## 渡航前PCR検査(陰性証明書)

検査出国先(亀田京橋クリニック、地図は20件以上の国のみ)

(単位:件)



### Q 3年間を振り返っていかがでしょうか？

すべてにおいて新型コロナウイルス感染症が最優先となり、駆け抜けた3年間でした。一方で、この間に実践した様々な取り組みを振り返ると、3年間は決して短くなかったとも感じています。

パンデミックにおいて、リスクコミュニケーションは非常に重要だとあらためて実感しました。職員の皆様、行政はじめ市民の皆様など、立場の違うそれぞれの対象者に説明の場を設けた武漢の帰国者受け入れオペレーションは、皆様の協力のおかげで非常にうまくいったと感謝しています。当院の職員は以前から医療の質に対する意識が高いと感じています。感染対策は医療の質に関することなので、発信した情報に対して正しくご理解いただき、協力も得やすい恵まれた環境でした。

亀田はプロフェッショナリズムを持って働いているスタッフが多く、例えば搬送担当をされている方も、院内でこぼこの道を車椅子ですと通ったり、搬送中の患者さまに「寒くありませんか？」と自然に声をかけたりと、その業務に誇りを持ち、スキルの高さを垣間見ました。今回はそのプロフェッショナリズムに支えられたと感じています。

### Q 感染症科医としての思い

私たちはいわゆる「感染症屋」なので、100年に一度のパンデミックに立ち会うことになって、専門家として役割を果たすべき場が与えられたと強く思いました。病院のため、患者さまのためというのはもちろんですが、社会に対しても一定の役割を果たすことができたように感じました。

一方で、現実と自分の感覚とのギャップを感じる場面もありました。今回の大流行で、感染症科の志望者が増えるのではないかと期待したのですが、実際はほとんど変わりませんでした。当院だけでなく、他院でも同様の状況だったそうです。よく分からないものに対する警戒感、業務がコロナ中心で過剰な負担になってしまう恐れが若者の心にあったのではないかと推察しています。

### Q 5類引き下げが決定しましたが

感染症法上の分類を変えてもウイルスの性質が変わるわけではありません。私たち感染症の専門家だけでなく、すべての医療従事者、そして市民の皆様もやらなくてはならないこと、守るべきルールは変わりません。

感染症の対策は、しばしば公衆衛生上の集団の利益と、個人の利益の対立が起こります。通常であれば個人の自由は尊重されますが、それが他人の利益を損なうことになるような場合は、個人の利益を制限してでも集団の利益が優先されることがあります。

結核や新型コロナで隔離対応される患者さまについて

## 亀田総合病院 感染症科



## 新型コロナワクチン集団接種 実施回数(鴨川事業所)

82回の接種運営で  
10,026名に接種

## 職員コロナワクチン接種状況

3回目接種率: 95.7%

4、5回目を含む  
オミクロン対応接種率: 82.5%\*

\*2023年2月10日時点。引き続き接種を行なっています

## 感染対策本部人員

病院長  
亀田クリニック副院長  
看護部長  
看護部副部長  
災害対策調整室  
広報  
感染症科医師 2名  
ICN(感染管理ナース) 1名  
太陽会 1名

計 10名

## 「COVID-19 対策 TEAM」 メンバー

集中治療科医師  
研修医・専攻医  
看護師(ICN含む)  
呼吸療法士  
臨床工学技士 など



## COMST

(医療従事者のためのCOVID-19 Mental Support Team)

- チャプレン 1名
- 臨床心理士 4名
- 医師 4名
- 保健師 1名
- 看護師 1名
- ソーシャルワーカー 1名
- 事務 1名

は、全員が保健所の感染症審査会という会議で、隔離の妥当性について議論されています。感染症審査会は専門医だけでなく、一般の医師や公衆衛生担当者、弁護士もメンバーに入っており、人権制限に当たる隔離対応の妥当性について感染症法に基づいて審査しています。隔離対応となった場合は、感染症法に基づき金銭的な負担が生じないように医療費は公費負担となります。5類に変更されると、感染症法上で隔離や入院の勧告ができなくなりますので、医療費についても通常の保険診療となり自己負担が生じます。

ネット上では「5類になれば診療する病院が増えるのではないか」との議論がありますが、これも恐らくそうはならないと思います。現在でも2類感染症指定病院以外の病院でも新型コロナの診療をしている病院は多数あります。現在診療していない医療機関は患者動線や診療する部屋などを含む感染対策上の問題が解決できないので診療できないという所が多いと思います。それが5類になったからといって感染対策が突然できるようになるわけではありませんので、恐らく増えないと思います。さらに、今まで通常の医療を制限して新型コロナ患者を受け入れていた、高度な機能の病院も本来の高度医療を行うために新型コロナ患者の受け入れ病床を縮小してゆくとされます。その場合は現在よりも新型コロナのための入院病床はむしろ少なくなる可能性も考えられます。

また、「マスクを着けなくて良くなる」というのは誤解であり流行中はやはりマスク着用は推奨されますし、病院などの

リスクの高い人のいるところでは引き続きマスク着用が継続されます。第9波は受け入れ先が減少する一方で、感染者は増える可能性があり、「覚悟の第9波」になると思います。

### Q 私たちに今できることは

新型コロナウイルス感染症の流行を抑えるために有効な方策は過去3年間の知見で明らかになっています。マスクを着用すること、三密を避けること、ワクチンを接種すること、です。マスクについては「着ける、着けない」の二元論で語らず、「必要な時には着ける」という考え方をしてください。必要な時とは、「知らない人と飛沫が届く2m以内で会話をする際、もしくは偶然そのような機会が起きる可能性がある時」です。人気のない浜辺を散歩する時はマスクは不要です。しかし、急に隣の人がかしゃみをする可能性がある、スーパーの中や人混みではマスクを着用した方が良いでしょう。例えば、毎回交通事故にあうわけではないが、車に乗ったらシートベルトをする、というのと同じ考え方です。

新型コロナウイルスは症状が出る前から他の人に感染が起こるという特徴があります。誰が感染者か、症状からはわからないので、人にうつさないため、人からもらわないために症状がなくてもお互いにマスクを着用しておくことが大切です。その時の流行状況に合わせて、防御レベルを上げたり下げたりすることが必要です。

感染症科  
ツイッターも  
やっています



# 看護の目

## PICCチームが優秀賞を受賞 看護業務の効率化 先進事例アワード2022

公益社団法人日本看護協会(福井トシ子会長)が主催する「看護業務の効率化先進事例アワード2022」の「タスク・シフト/シェア、多職種連携部門」の優秀賞に当院の特定行為研修を修了した看護師を中心とするPICCチームの取り組みが優秀賞を受賞。1月19日(木)午後、表彰式ならびに事例報告会が開催されました。

PICC(ピック)とは、腕から挿入する中心静脈カテーテルのことで、血管の確保が困難な場合や、食事がとれず点滴で栄養を補う必要がある場合、抗がん剤や抗生剤などの刺激の強い薬剤などを投与する場合に選択されます。その最大のメリットは、従来の首から挿入する中心静脈カテーテル(CVC)に比べて患者さまの負担が少なく、安全で感染率が低いことにあります。日本では2010年に医師が行う医療行為として保険適用となり、2015年に看護師の特定行為の1つにPICCの挿入が認められたこともあり、近年需要が高まりつつあります。

当院でもCVCからPICCへの移行を進めていくため、抹消留置型中心静脈カテーテル(PICC)の挿入手技を医師に代わって特定行為看護師がチームで担う「PICCチーム」を2020年10月に発足。指導役として手技に熟達した放射線科の鈴木崇浩医師をチーム長に、PICC挿入から病棟ラウンドを通したPICCの管理、病棟看護師への教育まで含めた看護を提供しています。

PICCチームの発足により、2019年度は62件に留まっていた院内のPICC挿入件数は、2021年度には589件まで増加し、カテーテル関連の感染や、PICC関連のインシデントや合併症、再挿入を減らすことに貢献しています。

また、これまでPICC挿入を担っていた医師は



その他の診療行為に時間を振り分けることができ、病棟では医師の診療終わりを待って夕方からPICC挿入の対応をすることが無くなるなど、タスク・シフト/シェアによる医師や病棟看護師の働き方改革の面でも成果をあげています。また、挿入後の患者ラウンドを通じて病棟看護師とコミュニケーションすることで、病棟看護師の不安軽減や、PICCチームの活動周知にも大きな効果を発揮しています。患者さまからは「首から挿入していた時に比べ楽になった」「(採血の度に)痛い思いをしなくて済む。採血が怖くなった」などの声が聞かれています。

また、チーム発足当初は週1回だった活動日も、活動メンバーや各診療科からの依頼件数が増えたことを受けて、現在は週3回、13名の特定行為看護師がシフトを組んで活動しています。PICCチーム発足当初から活動する特定行為看護師(1期生)は、この2年間で1人あたり平均110件、最も多い人で219件のPICC挿入を経験するなど、研修で身に着けたスキルの維持・向上に努めています。一方で、増える依頼に対応するため、メンバーはビジネスチャットツール(Microsoft Teams)を活用して挿入依頼情報やデータ実績

の管理、病棟ラウンドの患者状況の共有を図ることで、安心・安全でタイムリーなPICC挿入をすることで治療がスムーズに行われるよう活動しています。

アワードでは、こうした安心・安全でタイムリーな留置を目指したPICCチームによる業務改善の取り組みが評価され、優秀賞の受賞となりました。

受賞を受け、PICCチームの管理者で特定行為研修のプログラム責任者を務める飯塚裕美高度臨床専門職センター長は、「受賞できたのはPICCチームメンバーだけの力ではなく、活動を支えてくださった皆さまのおかげだと思っています。今後も安心・安全でタイムリーなPICC挿入から管理まで、患者さまのQOL(生活の質)向上を目指し、質の高い看護を実践していきます」と感謝の言葉とともに今後の抱負が語られました。



PICCチームによる初期研修医師へのレクチャーの様子

PICCチームでは、昨年末からAYA世代(思春期・若年成人)のがん患者さまが家庭で生活しながら学校へ通えるよう、外来でのPICC管理をスタートさせるなど、活動の場を広げています。

(編集部取材記事)

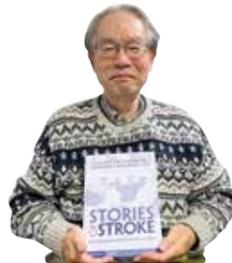
## 《PICCチームメンバー》

- ・ 統括責任者 : 中港秀一郎医師(放射線科部長)
- ・ チーム長 : 鈴木崇浩医師(放射線科)
- ・ 副チーム長 : 田畑里佳子医師(血液腫瘍内科)
- ・ 管理者 : 飯塚裕美(高度臨床専門職センター長)
- 1 期 生 : 佐久間進悟、八代大輔、岩井大作、渡邊律子、渡邊恭章、金城一也
- 2 期 生 : 高神慎太郎、高瀬暁、片倉あゆ美
- 3 期 生 : 吉田千尋、高梨晶世、渡邊直樹、利田良和



# CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース



## 神経学書で 福武医師が索引キーパーソンに

本年初頭にケンブリッジ大学出版局から、『Stories of Stroke(脳卒中の物語)』と題する医学書が発売され、遺伝性脳症血管病の1型(CARASIL)を紹介した項目で、1985年に疾患概念を提唱し長年研究テーマとしてきた当院脳神経内科部長の福武敏夫医師の論文が引用掲載された他、概念の発展に貢献したキーパーソンとして、索引にフルネーム掲載されました。同著は脳卒中学の世界的第一人者であるLouis R. Caplan先生(米ハーバード大学神経学教授)らが編集し、ヒポクラテスの時代から現代まで脳卒中診断の歩みを、キーパーソンと概念の発展という視点でまとめた619頁からなる大著です。索引にはトップクラスの研究者が名を連ね、日本人医師では福武医師のほかモヤモヤ病を確立し

た鈴木二郎先生(東北大学名誉教授)、脳損傷の基礎的臨床的研究で有名な桐野高明先生(東京大学名誉教授)、神経病理学の岡崎春雄先生(Mayo Clinic名誉教授)、高次脳機能研究の森悦朗先生(大阪大学教授)の4氏のみ。福武医師は、CARASILについてはこれまでも神経学書で多数引用されてきたが、索引に名前が載るのは初めてのことで大変驚いたと話します。また、同研究が医師になって2年目に受け持った症例からスタートしていることから、「ありふれた症状だと見逃さず、臨床の中で『これは何か変だ』『いつもと違う』と疑問に思う気持ちが大切です」と若手医師に向けてメッセージをいただきました。なお、CARASILは希少疾患であるものの、2009年に責任遺伝子が発見されてからは、世界中で次々と症例が発見され、その遺伝子が脳卒中やアルツハイマー病などの発症の背景に関わることが示されてきているそうです。



## 血液・腫瘍内科 新設アワードで2人に優秀賞

血液・腫瘍内科の池田大輔医師と成田健太郎医師が個々に発表した新型コロナウイルスワクチンに関する論文で、「Roche Infectious Disease Award 2022(ロシュ感染症アワード)」の優秀賞を受賞しました。同賞は、医薬品や診断用具の開発等を手掛けるロシュ・ダイアグノスティクス株式会社が、感染症研究や対策に取り組む人々を応援する目的で2022年に新設した賞で、今回はCOVID-19に関連する研究や取り組みを募集し、全国から寄せられた38の研究・取り組みから選ばれた11組に賞が贈られました。池田医師は「血液悪性腫瘍患者におけるSARS-CoV-2

ウイルスブースターワクチン接種後の抗体状況」。成田医師は「悪性リンパ腫患者における新型コロナウイルスワクチンに対する抗体の反応」と別々に応募した論文ですが、同一医療機関かつワクチン接種後の抗体反応に関する研究という点で共通することから、亀田総合病院血液・腫瘍内科として、優秀賞が授与される形となりました。池田医師は「COVID-19の臨床診療に少しでも貢献できるように、今後も研究を続けていきたい」と抱負を語り、成田医師は「多くの方のご協力と、末永孝生部長のご指導のおかげで賞をいただくことができました。2人で受賞でき光栄です」と喜びを口にしました。

## 歯科健康教室など地域歯科保健活動に一役

当院歯科センターの亀田秀次センター長が学校歯科医師を務める鴨川市立田原小学校(前田桂子校長、児童数86人)が、このほど令和4年度千葉県学校歯科保健優良校優秀賞、第61回全日本学校歯科保健優良校表彰奨励賞を受賞しました。歯科センターでは、地域歯科保健活動の一環として、学校歯科保健活動に参画。2022年度は鴨川市立田原小学校で、歯科医師や臨床研修歯科医による歯科健康教室を1年生から4年生の4学年に対して開催しました。

歯科健康教室では、虫歯予防を目的とした歯磨き指導に留まらず、マスクの正しいつけ方や、長引くマスク生活のなかで増えている口呼吸を本来の鼻呼吸に戻すための「あいうべ体操」の指導など、学校側と連携し「よい歯の田原っ子」の育成に貢献しました。歯科センターでは、市内小学校での歯科健康教室など、地域の歯科保健活動に今後も取り組む予定です。



## 秋季防災訓練を実施

当院では消防法に定められた火災を想定した防災避難訓練と、初期消火訓練を年2回実施しており、12月17日(土)午後、秋季防災訓練を実施しました。今回は外来専用施設の亀田クリニック1階、青山フラワーマーケット裏で火災が発生したと想定し、出火階と直上階のスタッフを中心に、火災の発見から通報・消火・避難までの総合訓練と、非常放送設備を使用した放送訓練をあわせて行いました。患者さまを含め多くの来院者が入りす

る亀田クリニックでは、すべての方を安全に避難誘導することが求められます。訓練では消火活動とともに、直上階の中待ち合いで診察を待つ患者さまを非常階段から屋外へと避難誘導する過程などを確認しました。また総合訓練に先立ってA棟1階ビロティでは、職員による消火器や消火栓を用いた初期消火訓練も行われ、あらためて防災意識を高める機会となりました。



## 長狭高「医療・福祉コース」体験発表

当院と教育連携協定を結ぶ千葉県立長狭高等学校(山口健一校長)の医療・福祉コースで学ぶ7期生による医療体験発表会が12月1日(木)夕方、当院で開催されました。夏休み期間中、2日間の日程で行った「シャドー体験実習」を通じて学んだことを、実習を受け入れた医療スタッフに向けて発表するのが恒例となっています。今年、代表者8名(看護師体験者4名、臨床検査技師体験者1名、作業療法士体験者1名、管理栄養士+言語聴覚士体験者1名、理学療法士+作業療法士体験者1名)が発表しました。「看護の仕事にはミスが許されないという緊張感が印象に残り、自分の行動がすべて患者さまに影響すると自覚する必要があると思った」「管理栄養士と言語聴覚士の仕事を1日ずつ体験した。仕事内容が全く異なると思っていたが、実際には一人の患者さまに様々な専門家が関わる多職種連携が行われていることがわかった」「臨床検査技師の仕事は人の命を預かり、つなぐものだという自覚を持ち、常に学ぶ姿勢を忘れないことが大切だと感じた」「理学療法士と作業療法士には多くの共通点が



あった。日常動作ができるように回復の手助けをすること、リハビリテーションを効果的に行うためには患者さまとの信頼関係を築くこと、スタッフ間の情報共有が重要なことなどを知った」など多くの学びが発表されました。2015年に同校と教育連携協定を結んだ当初からカリキュラムのサポートを担ってきた臨床検査管理部の大塚喜人部長は、「それぞれが想像以上に素晴らしい内容だった。これからどのような職を目指すとしても、生活の中で疑問を持つことを大切に、一つ一つ意味を理解しながら勉強してほしい。いつか亀田と一緒に働きましょう」と激励しました。

## 院内成人式



1月12日(木)午後、ホライゾンホールで院内成人式が行われ、2002年4月2日から2003年4月1日生まれの対象者22名のうち、20名が出席しました。式には亀田俊明病院長はじめ、渡邊八重子看護部長、和泉竜也人事部副部長が出席し、新成人の門出を祝いました。病院長からは、「新成人おめでとうございます。これからは、何事にも責任を持って行動し、健康で充実した人生を送り、

活躍されることを期待します。また、この院内成人式をきっかけに同世代の横の繋がりを大事にしてください。また看護部長からは、「人生100年時代と言われる今、定年が60歳から、どんどん長く変わろうとしています。自分らしい職業人生を歩むために、自分の得意なところを見つけて強みにするなど、こだわりを持って歩んで行ってください」とお祝いの言葉が贈られました。出席者からは、「無事に成人式を迎えられて良かった。医療事務として病気に苦しむ方々を見ていて、健康に生きていることがどれほど幸せなことか実感しています」「職場で、成人のお祝いをしていただけて、とても嬉しかった。これからは一人の大人として責任を持って行動できるように頑張ります」「同世代の方との交流はなかなか機会がないので、同い年の仲間がこんなにいるとは思いませんでした」「一生に一度きりの20歳に、このような素敵な会を開いていただけたことを嬉しく思います。誠実な大人を目指して努力します」などの感想が聞かれました。

注：撮影のためにマスクを外しています

# 2022年度 患者さま満足度調査結果

## ■ 調査概要

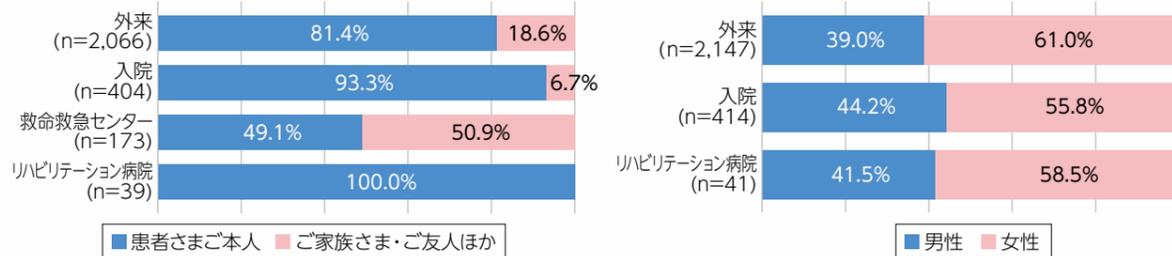
**調査期間:** 亀田クリニック(外来) 2022年11月7日～11月12日(計6日間)  
 亀田総合病院(入院) 2022年11月1日～11月30日(計30日間)  
 亀田総合病院(救急) 2022年11月4日～11月18日(計15日間)  
 亀田リハビリテーション病院 2022年11月1日～11月30日(計30日間)

**対象施設:** 亀田クリニック、亀田総合病院(入院、救急)、亀田リハビリテーション病院

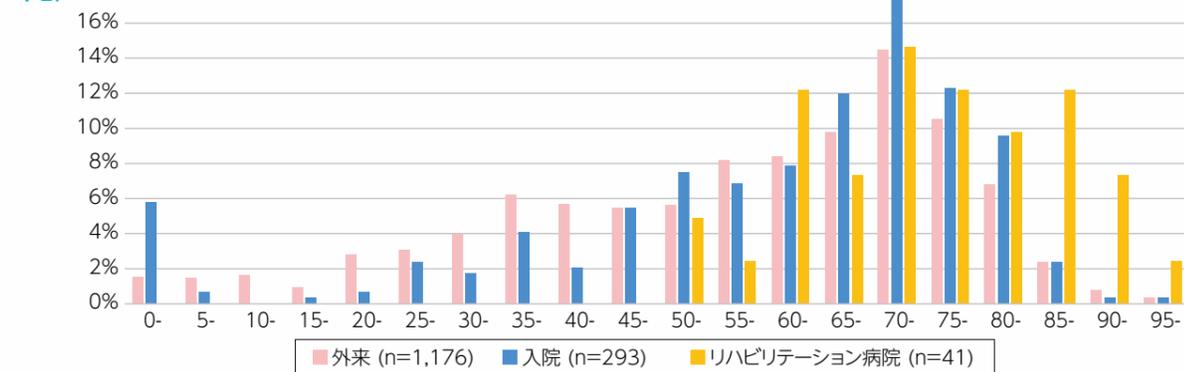
**調査形式:** 紙媒体の調査票を用いたアンケート。  
 回答者が院内の回収ボックスに投函し、アンケートを回収。

**回収結果:** 全体の回収数(回収率)は2,864(92.7%)、施設別では外来2,183(99.2%)、入院421(64.8%)、救急219(91.3%)、リハビリテーション病院41(100%)であった。

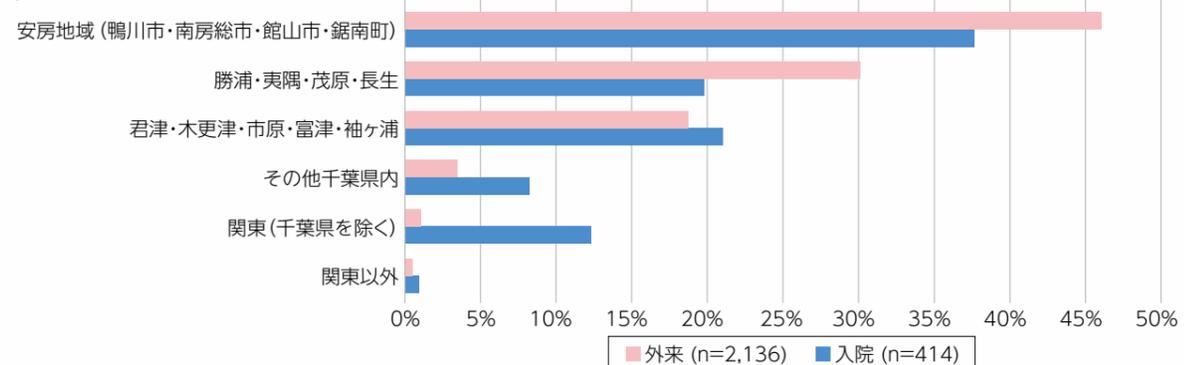
## 回答者



## 年齢



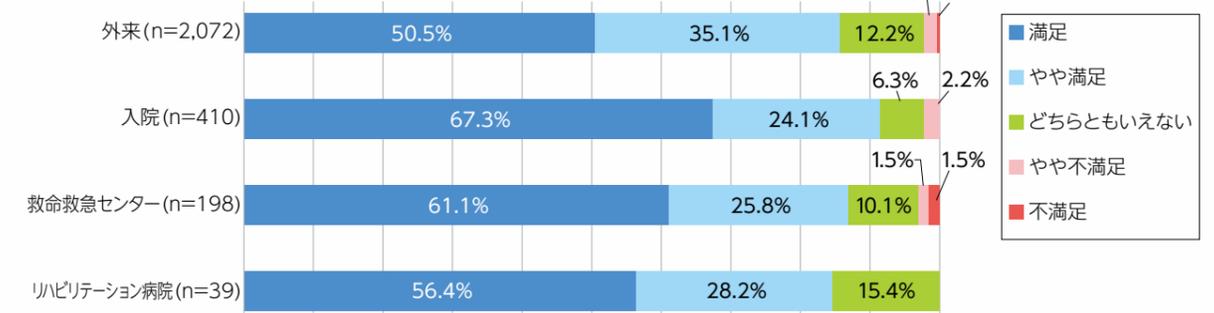
## 住まい



※構成比率は少数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります

## ■ 施設別満足度

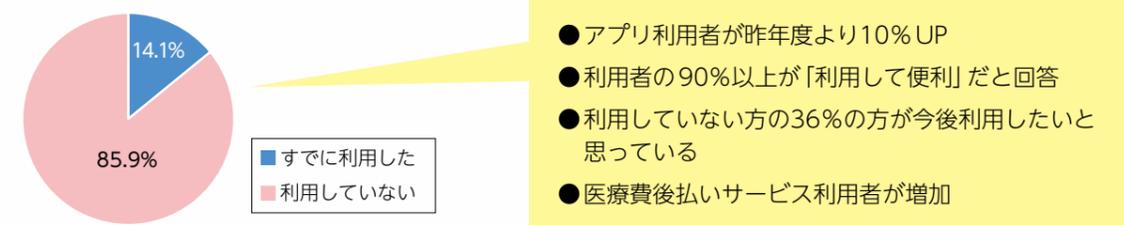
### 施設別満足度



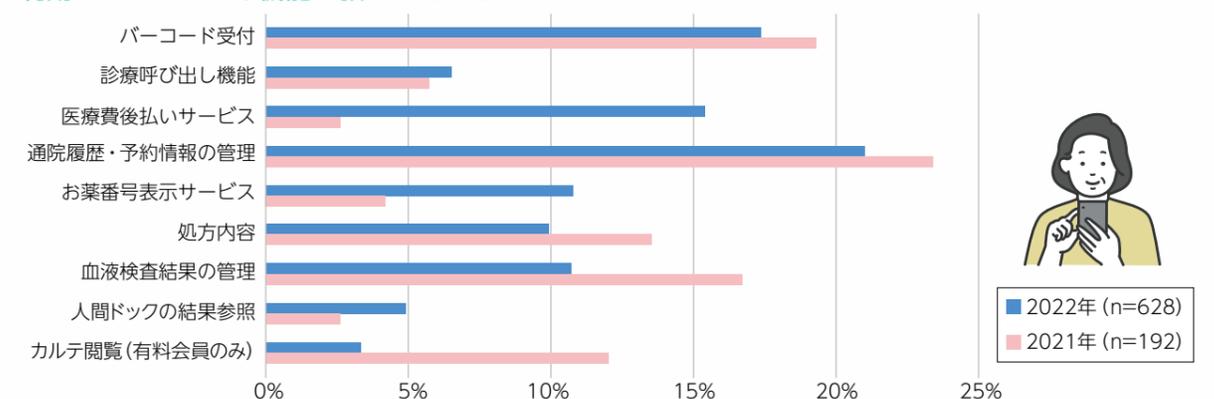
## ■ 外来

### NOBORIアプリを利用していますか (n=2,027)

※アプリ導入から1か月後のアンケート結果



### 利用したことのある機能を教えてください



### ★アンケート自由記入欄のご意見より

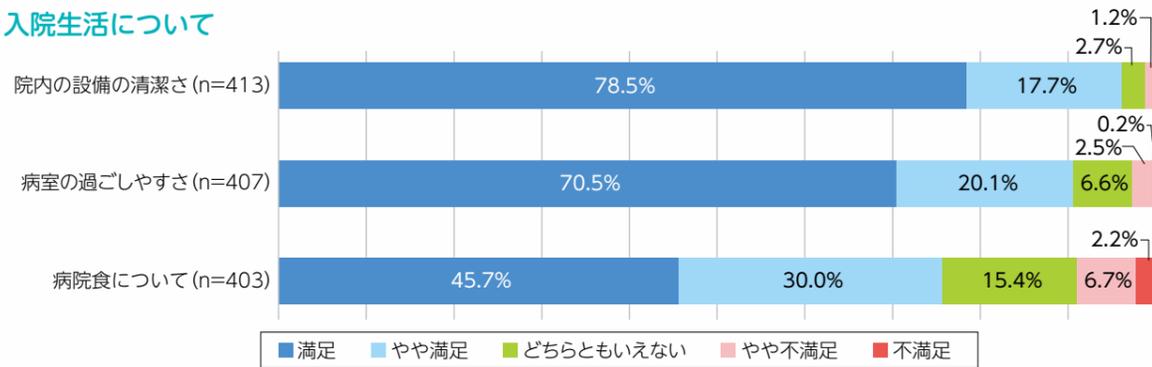
- ・妊婦健診や小児でもNOBORIを利用できるようにしてほしい。
- ・NOBORIの呼び出し機能が使えない時が多い。
- ・医療費後払いをしても、薬の待ち時間がありなるとかならないかと思う。
- ・会計列が長い。精算機にしてほしい。
- ・診察の呼び出しの音がわかりにくい。呼び出し番号が見えるようにしてほしい。
- ・採血採尿室のシステムが変わり、すごくわかりやすい。快適でした。

### 【今後の亀田クリニックの取り組み】

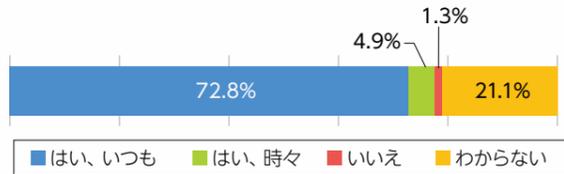
- ・診察室への呼び出し方法を改善 (NOBORI呼び出し機能強化)
- ・会計の待ち時間を、並んで(立って)待つから、自由に(座って)待つに変更
- ・NOBORI医療費後払いと薬宅配をセットで利用できるサービスを推進

## ■ 入院

### 入院生活について



### 病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をされていましたか？ (n=389)



### 病院職員はあなたに医療行為するにあたって、お名前以外にも (生年月日、診察券番号) など確認しましたか？ (n=400)

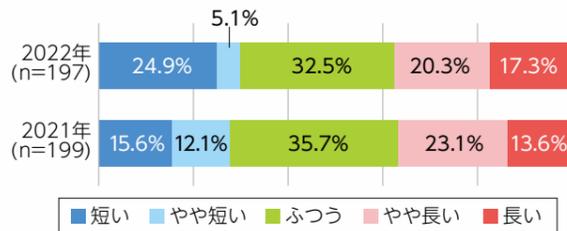


### ★入院に関するコメント (原文のまま)

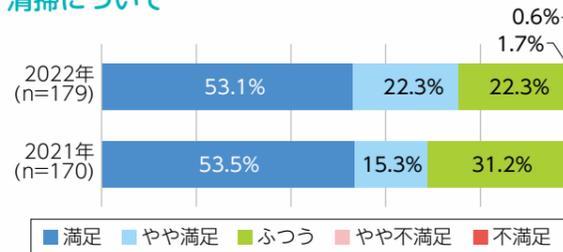
- ・スタッフの言葉遣いがとにかくキレイでビックリしました。看護されるのに安心感があります。
- ・大変厚く対応していただき、とても助かりました。不安な中での手術、入院でしたが、スタッフの皆様がとても親切に、丁寧に下さり、笑顔で接してくれてありがたかったです。
- ・食事が美味しかったこと、選べる点が良い。
- ・ホテルのような院内の雰囲気。清潔感。全く気分を悪くすることなく入院生活をできました。
- ・消灯を過ぎてもスタッフの大きな笑い声が大変気になりました。
- ・医師、薬剤師、看護師内の意思疎通が十分でないことが多い。充分伝えられていない。

## ■ 救命救急センター

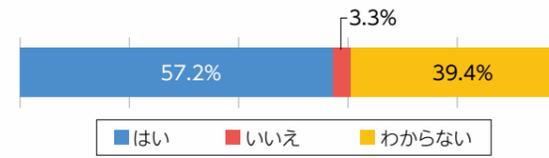
### 診察の待ち時間について



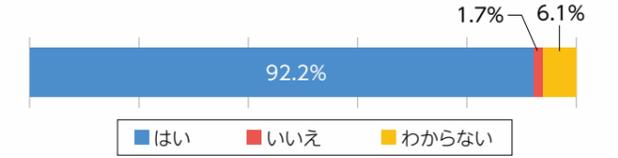
### 清掃について



### 病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をされていましたか？ (n=180)



### 病院職員はあなたに医療行為するにあたって、お名前以外にも (生年月日、診察券番号) など確認しましたか？ (n=179)

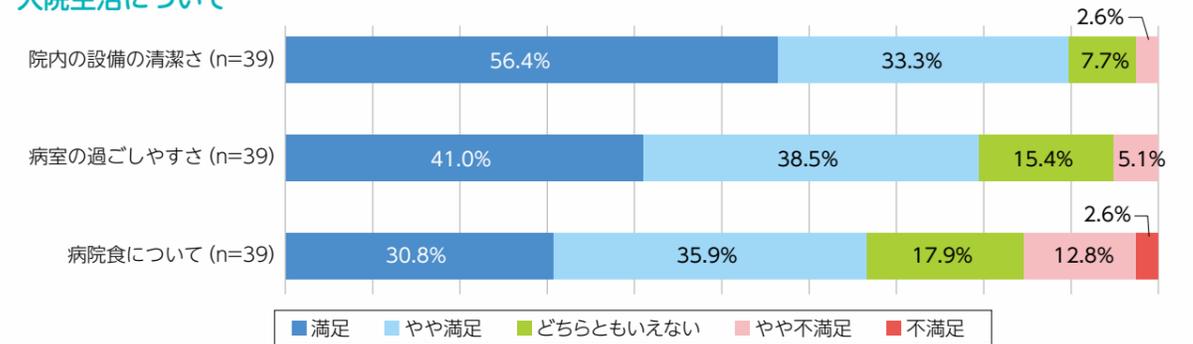


### ★救命救急センターに関するコメント (原文のまま)

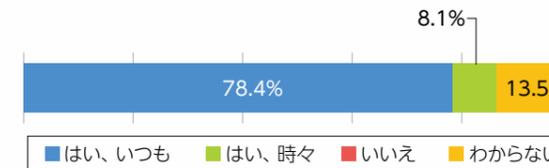
- ・笑顔で診察していただいて、ホッと安堵しました。
- ・夫婦共に、長年何かある度にお世話になっております。こちらに何と“安堵”の一言です。
- ・対応も良く、親切に説明していただきました。

## ■ リハビリテーション病院

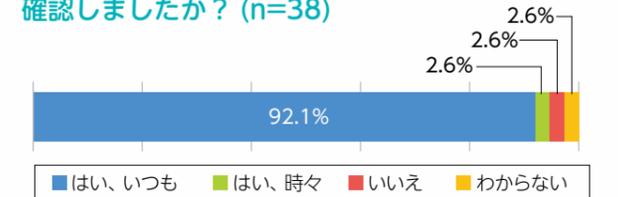
### 入院生活について



### 病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をされていましたか？ (n=37)



### 病院職員はあなたに医療行為するにあたって、お名前以外にも (生年月日、診察券番号) など確認しましたか？ (n=38)



### ★リハビリテーション病院に関するコメント (原文のまま)

- ・大変ありがたい。家族みたいに接してくれてとても嬉しい。
- ・私が落ち込んでいても、いつも慰めてもらいました。2カ月も入院していたら嫌になると思いますが、私はここを去るのが寂しいくらいです。本当にいろいろお世話になりました。ありがとうございました。
- ・言葉遣いが大変丁寧です。さわやかな気持ちです。

今回のアンケート結果を院内各部署にフィードバックし、今後、多職種による委員会で改善活動に取り組んで参ります。  
お気づきの点がございましたら、引き続きご意見をいただければ幸いです。



# 病院は誰かの仕事でできている



## 薬剤室の本音



患者さまの言葉が励み

単に院内薬局としてだけではなく、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種にもかかわるなど、地域の健康を支える役割も。コロナ下では患者さまから多くの励ましの言葉をかけていただき、スタッフも元気づけられました

仕事で1番大切にしていること

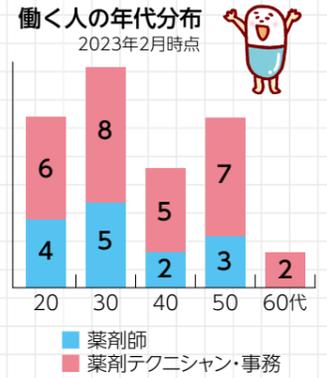
おくすりの待ち時間対策が常に課題です。人的補強もさることながら、待ち時間の長さよりも安全におくすりを服用していただくための情報提供や、継続的なフォローアップで満足度を上げています。また、取りそえた薬のバーコード照合などシステム導入により、調剤ミスがほぼ無くなりました

お薬宅配サービス

昨年より医療情報管理アプリNOBORI(のぼり)を使ったお薬宅配サービス(有料、医療費後払い設定が必要)を開始。診察前にブロック受付で「お薬宅配を希望」と伝えていただければ、薬のできあがりを待たず手ぶらでお帰りができます。  
⇒アプリの登録方法など不明な点はKタワー1階インフォメーションまで

## 今回の部署 亀田クリニック 薬剤室

32の診療科を有する大型外来専用施設の亀田クリニックには、1日2,000人を超える患者さまが受診されます。診察後にクリニック内で薬を受け取ることができる「院内処方」を選択しているため、薬剤室では薬剤師14人、薬剤テクニシャン・事務28人の計42人が協働して、医師から発行される1日平均1,300枚の外来処方せんに基づき医薬品を交付しています。重複投与や飲み合わせ、症状に合ったおくすりであるか、副作用は出ていないかをチェック。患者さまに安心して服用していただけるよう、飲み方や使い方を説明したり、相談に応じたりしています。



### お仕事のやりがいは?

外部の調剤薬局と比べ医師との距離が近く、処方内容に気になる点があった場合も、電子カルテを確認しながら、直接医師に疑義照会でき勉強になる

入院加療を行う亀田総合病院と外来診療を行う亀田クリニックとが連携して患者さまを診ているため、退院後のフォローアップを外来で行うなど、一人の患者さまと長く関わることができる

術前外来や免疫外来など、他の医療機関ではなかなか経験できない業務に携わることができる

患者さまからの問い合わせに対して、理解を得られたり、お礼の言葉をいただいた時

今年1月から処方せんを電子化し、医療機関と薬局との間でオンラインでやり取りする「電子処方せん」がスタート。院内処方を行う当院では、これを取り入れるかたちで約30年前から電子カルテを使った医療情報の共有化を進め、適切な服薬につなげています

### 大変だなと感じることは?

外来処方件数が多く、少しでも早く患者さまにおくすりを交付するため毎日が時間との闘い

受診に来た患者さまが最後に立ち寄るのが「おくすりの窓口」。限られた時間のなかで、いかに寄り添った対応ができるかを常に模索しています

立ち仕事が多い



すべての作業にスピードが要求される一方で、正確さや緊張感も求められます。患者さまに「笑顔」でお帰りいただくため、医師への疑義紹介や一包化など調剤に時間がかかる場合は、途中で経過をお知らせしたり、声掛けを行うなど、患者さまが「自分の処方忘れられているのではないかと不安にならないよう、待ち時間が長くかかる理由などを説明しています

### お仕事の魅力や選んだ理由など

さまざまな診療科の処方が経験でき、科ごとの特色などを広く学ぶことができる

認定薬剤師や専門薬剤師など、薬剤師としてより高度な知識や技術を身につけることができる

患者さまといろいろお話ができるため、薬に関する知識も増え、患者さまの治療に貢献できる

非薬剤師でも院内の認定制度で「薬剤テクニシャン」として、調剤の補助業務を通じて医療に貢献ができる。また、一般企業では知れない薬剤の知識も身につく

薬剤師の就職先としては、調剤薬局や給与や福利厚生面で条件のよいドラッグストアが人気ですが、医療機関で働く魅力は臨床の第一線で薬剤師としてのスキルを存分に発揮できる点です

## SECRET

### 薬剤室のひみつを聞きました

#### ①進むタスク・シフト

薬剤師不足から、米国に倣い薬の取りそえなど調剤の補助業務を担う「薬剤テクニシャン」を1995年より配置。窓口で患者さまと接する機会もあるため、銀行の窓口業務やバスガイド、ホテリエなど接客業経験者も多く活躍!

#### ②薬剤師の活動の場は調剤だけにあらず



手術予定患者さまの服用薬剤の継続について薬学的評価を行う「術前外来」、継続的な薬物治療が必要になる免疫疾患の患者さまの治療薬選択をサポートする「免疫外来」など、薬の専門家として外来診療の場面でも活躍の場が広がっています

#### ③煎じ薬にも対応

漢方を扱う東洋医学診療科があるため、漢方エキス製剤(煎じ薬を飲みやすく顆粒や錠剤に製造したもの)だけでなく、他の医療機関では院内調剤として取り扱いの少ない生薬(煎じ薬)も約120種を常備し、患者さまにあわせて院内処方しています



### おいしいぞ!

- 同僚とめぐる房総グルメ  
人数制限は残るものの、ようやく同僚と食事を楽しむ機会が持てるように。新鮮な魚介類など、おいしい食事でエネルギーチャージ!!
- 光と風と海と  
社宅住まいだと、交通手段はもっぱらチャリダー。休日は鴨川の豊かな自然を五感で満喫しながら市内散策など。鴨川といえば海! 夏場は泳いだり、ただ波を眺めて過ごしたり... 気分をリフレッシュしています
- 男子ごはん  
一人暮らしをきっかけに自炊を始めました。これといって得意料理というのはありませんが、房総はやはり魚がおいしいので、煮つけには自信があります

# 亀田総合病院報

No. 272

亀田ホームページ <https://www.kameda.com>

2023年3月1日発行（隔月発行） 発行責任者：亀田隆明 編集：広報企画室

発行：医療法人鉄蕉会 〒296-8602 千葉県鴨川市栗町1929

当広報誌は個人情報保護のもと本人の了承を得て作成しており、本用途以外の転用は固くお断りしております。

All articles on this PR magazine has been printed under the permission of the subscriber to protect their personal information.

All editorial content and graphics may not be copied without the permission of Kameda Medical Center, Public Relations which reserves all rights.

